

# FZ250 Phazer

1985年 / 市販車

1980年代は数多くのSF映画が公開され、当時の社会全体の空気感と共に、未来に対する夢を大いに享受できた時代といえる。モーターサイクルのデザインにおいても、それまでの既成概念を打ち破り、新しい価値観の提供を目的に、数々の先行デザインが検討されていた。先進的な設計思想により、4ストローク DOHC 直列4気筒のエンジンは14,500回転で45ps という、それまでにない挑戦的なスペックのエンジンを目指していた。

一方、デザインの多くのアイデアは初期のスケッチの段階で淘汰され、実際の市販車開発には至らずに消えていくなか、単なる印象としての未来的なスケッチではなく、既存製品の構造自体を新しい方法で構成する事に着目した。それまでの外観部品としての燃料タンクをフレームに載せて固定、シート、カバー類をフレームに対し横方向からねじ止めするという既成概念を捨て、タンクは外観部品ではなく最初にフレームに固定してしまい、ヘッドライトや複数のカバー同士を先に組付けた後、最小限の数のボルトでフレームに固定するという全く異なるアプローチを行った。結果として、一体感と連続性のあるクリーンな造形表現が可能となり、今まで見たことのないデザインを実現できた。根本的な発想自体を変えることで「未来」的な斬新さが生まれたモデルとなった。

